



清新二中だより

教育目標

- 1 豊かな心で、互いに敬愛できる人（敬愛）
- 2 進んで学び、深く考える人（知性）
- 3 健康で明るく、自ら鍛える人（健康）
- 4 責任を重んじ、勤労を尊ぶ人（責任）
- 5 礼儀を重んじ、他とよい関係を築く人（礼節）

鎌倉

校長 白石 亨



まさに日本を代表する美男子だ。

そのお方の目元は切れ長で実に清々しい。瞑想にふけるかのごとく目を伏せ、鼻筋のスッと通った横顔を見せ付ける。「御仏なれど…美男におはす…」と、女流歌人の与謝野晶子に詠ませたのが鎌倉大仏なのだ。実に端正なお顔立ち。元来、仏様には男女の性別はない。だが、鎌倉武士のイメージなのか、由比ガ浜から吹き付ける冷たい潮風に耐え得る強さなのか、鎌倉大仏からは男性的な香りが漂ってくる。野ざらしのままの姿が、一層男っぷりを高めている。

11月下旬、2年生の校外学習で鎌倉を訪れた。

大仏が鎮座する高德院で待機していると、生徒たちがぞくぞくと到着する。多くの生徒が「わっ—大きい！」との第一声をあげる。班員そろって顔を鈴なりにさせながら、お腹のあたりで手のひらを組み、大仏様のポーズを真似して写真を撮ったりもする。中学生の元気で明るく、ユーモア溢れる姿に接すると嬉しくなる。長い期間制約を受けて我慢を強いられてきただけに、生徒の笑顔が一層眩しく感じられる。

今回の鎌倉校外学習。そのプランは当初は真っさらな白紙だった。

班の仲間と「ここがいい」「あそこがいい」と言い合いながら、試行錯誤し、手間と時間をかけて練り上げてきた行動プラン。自分たちだけの唯一の鎌倉オリジナルプラン。だからこそ、やりがいがある。

そして、先生方からの管理・監督を離れての丸一日。

生徒諸君にとっては、さぞや自由な時間、自由な行動、自由な空気に、解放感が広がったことであろう。だがその反面、生徒一人ひとりには重い責任感と自主的な判断力が強く求められてくる。知らない土地を自分たちだけで行動することはとても難しい。また丸一日を友達と一緒に過ごすことは美しいことばかりではない。長い時間一緒にいれば、ついつい愚痴が出たり、わがままな部分が出たりする。普段の教室では見えない友達の顔も見えてくる。お互いがお互いの気持ちを一つにすることの難しさ。それに気付くことが大切なのだ。

正午を過ぎると、食事処「鎌倉 味亭」に生徒たちが集まってきた。

とてもいい顔だ。遠くから先生方を見付けて大きく手を振る生徒もいる。到着するやいなや、ニコリと笑って「校長先生！明月院から来ました。バスも電車も混んでいて大変でした」と報告してくれた生徒もいる。息を弾ませ、ちょっぴり自慢げだった。自分たちだけでやりきった満足感が笑顔になって溢れていた。

昼食を終えると、多くの生徒は小町通りに出向いていく。

ご存じのとおり、鎌倉駅から鶴岡八幡宮に続く小町通りはお洒落なお土産屋が軒を連ねている。鎌倉土産はこの小町通り沿いで求めるのが定番であろう。だが、鎌倉本来のよさは一本奥まった路地にある。白い漆喰の築地塀があつたり、老舗の鎌倉彫のお店があつたりする。路地の角の小さな和菓子店には、古めかしいガラス戸の向こうから半紙がペタリと貼られ、「ご進物にどうぞ お年賀にどうぞ」と薄墨の枯れた筆づかいの文字があつた。ガラス越しに拝見しただけでも嬉しくなる。まだ裏通りには古都鎌倉の香りが残っている。このような路地に立ち寄れるのもグループ行動のよさなのである。「信頼し、任せ、支える」。これが教育の基本だと思っている。すべてを任せられたときこそ人は大きく成長できる。今回の生徒諸君のグループ行動がそれを示してくれた。

そして鎌倉には早くも年の瀬の風情が漂っていた。店頭の「お年賀」の文字、寺社のしめ飾りの準備などなど。大晦日には生徒たちが訪れた鎌倉五山の寺社にもかがり火が燈され、多くの参拝客が暗い石段を登りながら除夜の鐘を聞くのであろうか。そう、新しい年がすぐそこまで来ている。希望と期待を秘めて新年が近づいている。